

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300154
法人名	社会福祉法人 小竹福祉会
事業所名	グループホーム新多園
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多上日177-8
自己評価作成日	令和元年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい取り組みとして、口腔内環境を整える・誤嚥性肺炎予防する・口腔内の清潔に力を入れています。日課として昼食前に口腔体操・ことわざ遊び・合唱等 摂食嚥下機能を向上出来る様準備運動を行い 楽しく安全な食事時間となる様支援しています。毎食後の口腔ケア・必要であれば洗口剤使用しています。又、歯科医の定期的な管理が必要な方は、定期的に往診にて診て頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和元年8月7日	評価結果確定日	令和2年1月27日

開設して17年目を迎える歴史ある事業所であり、広い敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス、居宅介護支援事業所等が併設されており、災害対策や職員育成、食事提供等において連携を発揮している。平屋建てのゆとりある生活空間では、ボランティアの方々による創作レクリエーションや個別の介護計画・行動計画に基づいた関わりの中、自立支援や機能保持、役割づくり等に向けた支援が行われている。ヒヤリハットの分析等、根拠のあるリスク軽減に向けた取り組みと日常の中でのアクティビティの充実のバランスを検討しながら、車椅子から食卓への移乗がその都度行われる等、細やかな対応が行われている。職員の働きやすい職場環境づくりへの働きかけも大切に、安心・信頼できる事業所づくりへの取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時 理念を唱和、意識付けと共有するとともに改めて理念の目的 意義を全職員で再確認したくさんの笑顔を引き出せるよう 支援に努めています。	職員が意見を出し合い作成された理念「住み慣れた地域で笑顔あふれる充実した日々を」を掲げ、目に付きやすい場所への掲示や朝礼時の唱和等を通じて、共有を図っている。毎月発行される事業所通信「ほのぼのだより」にも掲載されており、関係者との共有にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に 立ち寄られる訪問者は少ないが、毎月定期的に地域のボランティア講師による習いごとや町主催のお祭りに作品を出品し見学に向き 地域とのつながりを維持していくよう努力しています。又法人は、認知症カフェを開催し 地域に開かれた場所となる様に取り組んでいます。今後の地域との交流にも期待しています。	フラワーアレンジメントや三味線、合唱等のボランティア講師の訪問があり、町民文化祭への出品や見学等に繋がっている。隣接する同法人通所施設では「認知症カフェ」も開催されており、ホームとしても協力している。飲酒運転撲滅に向けた折鶴を利用者と共に作成し、関係機関に届ける等の取り組みもなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、認知症カフェを開催しておりホームも運営に関わっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束廃止委員にもなって頂き、事故報告事例とその後の改善策(身体拘束にならない)に対してのアドバイスをいただき、ケアに取り入れました。前年度の事業報告も配付し ホームの取り組み等 振り返って頂き 意見や感想等頂いています。意見に対しては、ケアの向上となる様反映しています	利用者・家族・民生委員・地域の知見者・行政担当者等の出席を得て、運営推進会議は定期開催されており、職員が参加する機会も多い。運営状況や身体拘束廃止に向けた取り組み等を報告し、意見やアドバイスを得ている。議事録を掲示し、閲覧可能としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2～3回は福祉課へ入居者状況書提出等出向く機会があります。運営推進委員の職員や 以前の委員の職員の方も在職されておられ相談しやすく信頼関係は十分に図れています。	町役場福祉課へ運営推進会議案内を届けたり、地域包括支援センターと空室状況を共有したり、ケースワーカーの方との連携も含め、顔の見える関係性の中で情報共有や連携を図り、開かれた事業運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、内・外部研修を実施し 身体拘束によるリスクや ヒヤリハットや事故報告書から見えてくる、危険予測に基づき職員間での情報の共有を徹底し身体拘束をしなくてよい、環境づくりを実践しています。施錠は夜間のみしています。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会開催や研修実施、個別のリスク・ヒヤリハットの分析や検討を通じて、より良いケアの実践に努めている。言葉による抑制や見守りの距離感、環境整備等にも留意しながら、車椅子から食卓の椅子への移乗がその都度行われる等、利用者主体の暮らしの継続に向けた意識の高さがうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で研修を受け 30年度は、2ヶ月に1回ホーム内研修実施した。従事者として早期発見をしやすい立場であること 発見時には 通報義務がある事と同時に通報される立場にあることも自覚しなければならない。尊厳や権利擁護をより理解し虐待のないケア支援はできています。	/	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体や外部研修で尊厳や権利擁護をより理解するよう学ぶ機会があります。日々のケア時は、ご本人のペースで過ごして頂き尊厳や権利を尊重した支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にあらかじめ運営等の説明は行い 契約時に新たな疑問 質問に対して説明し安心納得していただいています。随時 疑問等あれば対応することお伝えし 信頼関係の構築にも努めています。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が頻回な家族様には、その都度、面会のない方には3ヶ月1度は電話にて連絡させていただいています。毎月の発行便りにて日々の活動状況をご報告 ホームでの取り組みを理解して頂き ご要望や質問が有ればお尋ねになるよう 呼びかけ促しています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員と日々業務に関する意見交換は、頻回に行われています。朝礼 会議・昼休憩を通し 気付けば利用者様のケア方法や今の困りごと 今後の事業計画の具体的案等 話しています。日頃の会話の中で、「やってみたら楽しいかも」と提案イベントが計画実行されています。利用者様と楽しく過ごしたいとの思いで、アンテナを立て新しいことにチャレンジし運営に協働として関わっています。	利用者の希望(アンケート)や日常の言葉「ウェディングドレスを着てみたい等」を受け止める気づきを大切にしながら、職員個々がアイデアを出し合い、「まずはやってみよう」と新たな企画やイベントにチャレンジしている。単なる情報共有に留まらず、簡単にあきらめず、日々の関わりに結び付ける風通しの良さ実践力がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、給与規程が整備され給料表・昇格基準・資格等の手当・支給率等が明白且つ明確となった又労働基準法の改正もあり、働き方改革は、土気の向上とスキルアップに繋がり やりがいのある職場にパワーアップしたと思う。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接希望者は全て対応しています。能力 得意分野 スキルに応じ能力が発揮できるよう、又負担とならない範囲での分担業務になっています。ストレスを抱え込まないためにも、シフト等に出来る限りの配慮を心掛けています。社会参加等の希望休 有給等要望に応じ 又体調管理も含め、異変事は、早期受診する様に特に配慮をしています。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。資格取得や地域活動に参加するための勤務調整及び希望休取得への配慮、新たな給与規定の整備等、モチベーションの確保や働きやすい職場環境づくりへの取り組みがうかがえる。職員同士がプレゼント交換を行う機会も設け、コミュニケーションを深めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修及び事業所内の勉強会を通し理解するよう取り組んでいます。現場においても尊厳あるケアを日々実践するように指導しています。	人権学習や高齢者虐待防止、身体拘束等を内外の研修計画の中に複数回位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月1回開催 学ぶ機会を確保しています。施設外研修は近隣地域のGH会員として月1回の勉強会に出来るだけ参加ように努めています。研修で習得したことは、全職員で外部研修資料、レポートを共有しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のGHの会員となり勉強会にできる限り参加し情報交換を行い、日頃の困りごとなどお互いに相談できる関係になっています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族の面談を行い、困りごとや要望を把握したうえで ホームで対応可能な支援について説明し 温度差が生じない信頼関係を築くよう努めています。		
18		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に行い、家族様の施設利用までの経過に耳を傾け 今後の入居に対しての不安や 期待 要望等を伺い 信頼感を持って頂けるよう努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設において出来るサービス提供を説明させていただき 必要とされる支援が対応困難については、本人様の状態、状況に応じた社会資源を視野に入れたサービスや施設を紹介をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本位であることを常に意識し、ご本人が尊厳を保持し、望む暮らしが実現できるように共に助け合う関係作りを支援をしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力は、不可欠なものであります。絆を大切にすることに努め、問題があれば一緒になって考えて頂き、解決方法を必要であれば主治医と情報共有し探家族と共に、ご本人様を支えていくよう支援しています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前よりお付き合いをされている知人・親類等の関係継続は、家族様より制限のない限り家族様より面会等呼びかけていただけるよう支援しています。又急な外出・外泊希望も本人様の体調に合わせて行っています。電話の対応も支援しています。入居前の、掛かりつけ医は、出来るだけ継続していただけるよう支援しています。	家族との連携も図りながら、通い慣れた美容院やかかりつけ医、整骨院等の利用を支援している。また、知人の家を訪ねたり、以前利用されていたデイサービスで取り組んだ切り絵が事業所にて完成となる等、継続を意識した支援も行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常活動を通し、日々触れ合う機会を提供しています。洗濯量等、共に協力して活動を促す事で、連帯感を持っていただいています。食の細かい方を心配され声をかける場面や、創作レクや得意な作業時では、共に教え合ったりとお互いを、認め合った同志として生活されておられます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退園後も、移転先への訪問、入院されればお見舞いに伺っています。年賀状を入院先や家族様に送らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・意欲・関心をうかがい知ること、日々の生活の中、何気ない会話や口数の少ない方に対し、意向や悩み事等を引き出せるよう精神的に落ち着いておられる時に伺ったりしています。実現できる意向は迅速に対応し、必要であれば家族にお伝えし対応策を講じています。安心して望む暮らしができるよう支援しています。	ヒアリングシートの活用や日常の言葉や仕草等について、価値観の多様性や気づきへの理解を深めながら、利用者個々の思いや意向の把握に努めている。風通しの良い職場環境を活かし、職員間での共有と検討を通じて、日々の暮らしに反映する取り組みがある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ケアマネ、主治医、ご家族様から情報収集、抱える問題の内容を把握し、在宅での生活リズムや継続する事柄、改善点等を明確にするように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活機能の維持向上に繋がる支援に努め、ご本人のできる活動を少しずつ拡大しつつ、無理の無い日常生活と充実した暮らしを提供しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のペースで経過して頂くことを主として考え、多職種のご意見、アドバイスを参考にゆとり有る生活を送って頂けるよう、各担当がモニタリングを行い問題や課題を抽出。又ご本人ご家族様の意向に沿うよう、本人本位の無理の無い目標設定とし、尊厳のあるその人らしい暮らしを支援しています。	定期的なモニタリング・カンファレンスや、日常の中でも情報共有と意見交換が図られ、手芸が得意な方は、作品作りが盛り込まれ、町民文化祭へ出品する等、本人本位の視点から個別・具体的な介護計画が作成されている。新任職員へのヒアリングからも、情報や方向性の共有が図られていることが伝わる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な気づきや工夫に関しては、日頃よりアセスメントシート、個別日課表、伝達ノートに記載し職員間で情報の共有を図り、計画作成に反映するよう努めています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族様より要望があれば、その都度調整し柔軟に支援していければと考えています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、必要であれば、様々なサービスを提案する様心掛けています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ご家族ご本人の希望される医療機関での受診、往診を支援しています。ご家族付き添いの受診の際には、日常生活状況、排泄関係、食事・水分摂取量、バイタル表等、渡し主治医との情報共有を図っています。又、気になる事等は、家族様を通じ対応等指導して頂いています。又、主治医より電話にて直接指示頂く事も有ります。その時々々の状態異変時に、応じ臨時往診・通院・訪問看護を利用、ご本人、ご家族了承の基適切に支援しています。	かかりつけ医への受診や協力医による訪問診療が実施されており、状況や必要に応じて家族との連携を図っている。看護職員も2名配置されており、日常の健康管理や医師との情報共有等、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調の変化や気付きを個人の日課表 伝達ノートに漏れなく記載 情報の共有を徹底し日勤～夜勤～日勤へと繋いでいます。医療面全般の事に関しては、看護職へ直接質問等し、理解を深め適切に介護・看護・処置等する支援に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の指示の下、治療計画等 病院関係者・家族と情報の共有を図り 安心して治療を受けて頂けるよう支援しています。早期退院に向けた調整や予後予測 環境調整 生活上の問題点等 退院カンファ参加し病院関係者と連携 リアルタイムな情報共有に努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時、重度化した場合の方針や対応について説明させていただき同意を得ています。主治医より家族様へ終末期の説明をされた時 ご本人家族様が今後の方向性を決められ看取りの依頼された場合、当ホームの方針を説明し納得・同意していただき、主治医・ご本人・家族・多職種協働にて情報の共有と連携にて支援させていただきます。	入居契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明を行い、意向を確認している。法人内研修では、看取り介護(事例報告)や看取り後の振り返り、尊厳の維持についてを取り上げ、職員アンケートも実施されている。医療機関や訪問看護、訪問入浴等との連携を図り、看取りの実績もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルにて全職員が応急手当 初期対応の手順を把握し 月1回再確認後サインをしています。内部・外部研修で反復学習しています。災害における救命講習を4名の職員が受講しました。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	法人全体で入居者様も参加して頂き年2回避難訓練を行っています。災害時の備品(缶詰め飲料水等)完備しています。緊急時の自動送信連絡網も実施されています。消火器を実際に使用し消火訓練も実施しています。立地状況から近隣の民家が少なくご高齢の独居世帯ということもあり協力要請することは、困難であると思われます。	各種災害対応マニュアルを整備し、併設施設との連携を図りながら、避難訓練を実施している。出火場所の変更や実際に夜間帯(19時)での訓練を行う等の取り組みがある。高台にある平屋建ての建物は掃出し窓が設置され、避難経路としても有効である。居室入口には個別の避難方法が表示され、漏電チェックも実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を交えながらも、敬意を持った言葉使いで対応しています。日常生活より羞恥心への配慮を行い尊厳を持った生活が遅れるよう支援しています。	創作活動の際には、達成感や自尊心の保持を意識し、完成に向けた支援を行っている。介護計画の中にも「自尊心の保持・回復」や「自己決定の場面」が位置付けられている。個別の時間の流れや見守りの距離感等も意識し、個人の尊重とプライバシーの確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知能力から言語による意思表示を上手に伝える事が困難になってこられています、いろいろな場面で表情の変化意思表出のキャッチを心掛けています。簡単な言葉を使用し理解できる様努め意思決定の機会を作っています。極力ご本人様の興味関心を探るよう努めていますが、ご家族様が考える入居者様の気持ち…希望等を支援することが増えていきます。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースで過ごしていただいています。体操・創作レク等、自由参加とし、テレビ・好きな塗り絵・今年度町内文化祭の出展する個人作品作成に取り掛かれる方等様々な過ごし方です。無理強せず、生活リズムは崩さないよう支援しています。自由参加としていますが、皆さん楽しみにしておられ参加率は高いです。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に任せで 選択して頂いていますが、一部介助をさりげなく行う支援をしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみとして「世界の喫茶」「お釈迦様の誕生祝」「野点」「母の日」「父の日」等 イベント開催し、メニューからドリンクオーダーをして頂いたり食事以外で楽しく食して頂けるよう工夫しています。(食事は、併設厨房に委託しています)日替わりでお食事のご挨拶をして頂いたりテーブル拭きをして頂いたり と時間を共有しています。使用済み湯呑は各自で(一部介助の方も出来る限り) ホーム内キッチンまで下膳して頂いていますが、お元気な利用者が、下膳のお手伝いをしてくださいます。その都度、感謝の言葉を伝えています。	食事は法人厨房より提供され、管理栄養士との情報共有と意見交換に努めている。利用者のアンケートも実施しながら、「世界の喫茶」や「野点」等のイベントも開催されており、「食」に関連する楽しみごとの幅を広げている。希望や状況に応じて、食事の準備や後片付けに力を発揮して頂いている。口腔ケアを重要視し、清潔面や機能維持・向上に向けたアプローチに取り組んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立・祭事や旬の食材を取り入れています。食事や水分量 毎食計量記録 定量摂取して頂くよう支援しています。体重測定1~2/月実施 体重増減にも注意しています。食思低下気味の方には、家族に相談し、食欲増進に繋がる好みの食品を持参して頂いたり 食事形態の見直し 嚥下に注意必要な方は見守り声掛け行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所後 家族の同意を得て歯科検診を受けて頂き治療と口腔ケアのアドバイスを頂いています。起床時 毎食後 口腔ケア実施、洗口剤も必要に応じ使用しています。口腔ケア衛生指導を1回/月受けています。又、口腔環境観察が必要な利用者様については 歯科医の定期的な往診を受けて頂いています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じた尿取りパットを本人様のデータから選択し随時使い分けています。排泄チェック表にて誘導を行い 出来るだけトイレでの排泄を試みています。排泄の一連の動作も出来るのかを見極めにて自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表を活用し、個別の状況やパターンの把握に努めている。排泄動作の確認や排泄用品の検討等を通じて、日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間は個別の状況に応じた支援を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立にて食物繊維等豊富に取り入れており 工夫出ています。食事 水分摂取量運動等日々チェックをし 特に 排泄(-2、3日)の利用者様については、水分補給強化 腹部マッサージ運動等や主治医指示にて内服調整行っています。出来るだけ食後 トイレ誘導にて働きかけを行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日は、受診や排泄状況に合わせて調整しています。入浴前に本人に同意を得て行っており、「今日は…」という方には、翌日に入浴して頂くようにしています。	週に4日の入浴日を設定し、希望や体調、状況等に応じて、タイミングや声かけを工夫しながら、柔軟な対応に努めている。菖蒲や柚子、蜜柑やキンカン等、季節湯を楽しむ機会もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしていただいています。安眠優先の方、希望の時間にトイレ誘導を行う支援をしています。室温も好みに合わせますが、適温を意識し適時調整しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の疾病名 定期処方薬の把握、追加処方や臨時薬については 薬剤師より随時 説明があり 薬事や在宅療養管理指導に職員は確認サインをしています。追加処方や変更時は特に状態観察と記録を行い主治医との情報共有に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理の無い範囲で役割をもって頂き充実感・やりがいになればと思っています。又 その都度感謝の意を伝えていきます。月2回のボランティアの訪問が定着し楽しみな時間となっています。現在ホームでは塗り絵がブームとなっており集中してされて取り組まれています。裁縫が得意な利用者には、雑巾づくりをお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日光浴を兼ね 天候・気温を見ながら園外散歩しています。過ごしやすい時期は、花見を兼ねたお茶会等を催したりしています。家族の協力で病院受診・親類宅・外食・お墓参り・通いなれた整骨院等 戸外に出かける支援 家族との繋がり 家族と過ごす安らぎの時間を大切にしています。	広く平坦な敷地内に立地しており、気軽な外気浴や散策が可能な環境を有している。季節にあわせて、敷地内でお茶会が開催されることもある。家族の協力も得ながら、知人宅への訪問や通い慣れた美容院、整骨院の利用等に出掛けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して、ホームでは管理していません。契約時に必要な立替の依頼をされておられるので 本人様が支払うことはない状況となっています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援しています。手紙等は、返信するための物品提供等 一部介助を行っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備・喚起に配慮しています。ホームの外周には、四季折々の樹木があり、季節の移り変わりを感じて頂いています。ベランダ枠いっぱい広がる竹林・紅梅は、眺めているだけで心穏やかにられるようで「すごいね・きれいな・気持ちがいいね…」と利用者同士で話題にも上がっています。	平屋建てのゆとりある共用空間は天井も高く、キッチンを中心として回廊式となっている。桜や紅梅、紫陽花、金柑、竹林等が周辺を囲み、掃き出しの窓からは四季折々の風景を見ることが出来る。動線の確保等、環境整備によるリスク軽減や、換気にも配慮し、居心地の良さや安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファには、いつの間にか定位置化した仲間同士で座られるようになっています。自室で臥床しテレビを観る方や自室椅子で考え事をされたり、様々な過ごし方をされています。活動の声掛けには、参加され皆さんと共に過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・ベッド等持ち込まれています。不足なものがあれば、家族と一緒に取りに行かれています。家具の配置も本人様の好みになっており、ご主人・子供達・愛犬等の写真を、見える場所に飾られ各々が回想を懐かしんだり 訪室時には、写真を見ながら昔のお話をいただいています。	避難方法が表示される各居室には、馴染みの家具や仏像、化粧道具、家族の写真等が持ち込まれており、動線の確保にも配慮しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。デイサービス利用時から取り組む切り絵がホームで完成となる等、継続性のある支援も行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や転落等、一人一人の危険予測を把握し、環境整備や見守りを徹底 安心安全の中、ご本人の尊厳保持を第一に自立した生活支援となる様 各自が出来る役割を担って頂き充実した日々を送れるよう努めています。		